

鐵 鋼 ニ ュ ー ス

大河内記念賞受賞者決定

第2回大河内記念賞の受賞者についてかねて大河内記念会において選考中であつたが、この程決定し、4月27日贈呈式を行つた。日本鉄鋼協会々長及び通産省製鉄課長の推薦に係る鉄鋼関係の受賞者次の通り。

大河内記念技術賞

連続式条鋼圧延機の研究とその実施—高石義雄氏

大河内記念生産賞

可逆式冷間ストリップ圧延設備国産化の成功

—日本鉄板、日立製作所

高圧冷コークス炉ガスによる平炉操業について

—富士製鉄所室蘭製鉄所

高温高圧ボイラー用鋼管の製造技術の確立

—住友金属工業鋼管製造所

八幡製鉄の第二次合理化計画

八幡製鉄では26年から実施中の第一次合理化計画が完了したので、本年度から5カ年計画で総予算260億円を投じ、第二次合理化計画に着手することになった。この計画によれば最終年度の35年度の生産目標は銑鉄260万t、鋼塊336万t、鋼材269万tで、昭和30年の実績銑鉄165万t、鋼塊235万t、鋼材194万tにくらべ飛躍的増産となる。

設備合理化の中心は八幡製鉄所の戸畑地区に最も重点がおかれ、土地を埋立てて1200t高炉を1基建設など、製鉄、製鋼および分塊に至る一連の工場新設、ならびに既存の戸畑ストリップ工場の増強をはかると同時に最低2万t級の銑石専用船の接岸を可能とする岸壁を構築する。つぎに八幡地区では、高炉の改修、厚板用分塊工場新設、厚板工場増強などであり、光製鉄所では連続鑄造設備の新設などである。

上吹酸素転炉製鋼特許取得

日本鋼管ではかねてオーストリア・アルピネ会社との間に、上吹酸素転炉製鋼に対する特許権取得につき折衝中であつたが、この程決定して正式調印が行われた。これによると日本鋼管は140万米ドル相当のポンドを支払うが、同時に日本国内における第三者に特許の実施許諾を与えることが自由にできることになつている。これによつて上吹酸素転炉製鋼はいよいよわが国でも実施するはこびとなつたが、これは鉄屑枯渇対策として将来の鉄鋼生産を左右するものと成果が期待されている。

コークス比新記録

八幡製鉄所洞岡第3高炉の2月における銑鉄1tに使用するコークス比は0.67tで、29年10月にたてた0.673tの最高記録を破つた。これは国内はもちろん外国にもない記録である。同高炉は昨年12月5日に火入れされた新鋭千屯炉で、この成果は鉄銑石の事前処理による粒度の均一コークスあるいは焼結銑の品位が目立つて向

上したのと、計器による科学的操業などの結果と見られる。

30年度の鉄屑需給

鉄鋼連盟の調査によれば、30年度の鉄屑供給計7,644千tのうち、市中鉄屑購入総量は3,225千tに達している。30年度の需給実績のうち、とくに注目されるのは、市中屑購入総量が320万tの多量に達したこと、平炉および電炉による鋼塊増産が著しく、このため両炉の鉄屑消費量が見込みより相当ふえたことで、この結果平炉の新銑配合率は見込みより低い値となつた。

市中屑がふえたのは昨年3～5月の買い漁りにより3カ月間に約103万tが出廻つたためである。平炉および電炉の鉄屑消費量増大は世界的な増産傾向を反映したためと、銑鉄の供給量が不足がちであつたからとされている。内訳次の通り(単位千t)

期初在庫632(供給) 自家発生2,949, 市中購入3,229
輸入1,466, 合計7,644(需要) 製鋼用5,942, 製銑用270, フェロ用12, 伸鉄用337, 鋳物用760, 合計7,321
期末在庫680。

耐火煉瓦の生産

全出荷量の6～7割を鉄鋼部門の需要に依存している耐火煉瓦業界は、1昨29年鉄鋼業界の不振に伴つて深刻な打撃を受け、弱少メーカーのうちには転廃業ないしは倒産するものまで出たが、昨年は鉄鋼の好況とともに漸く好転し、生産出荷ともに正常の状態に回復した。また単に生産が回復したのみならず、鉄鋼業の合理化が進むにつれて品質の向上を要請され、最近では技術、品質とも国際水準に近ずき、従来すべて輸入していた高炉用煉瓦も国産で賄う有様で、31年度生産は前年度比3万t増の76万tが見込まれ、従来殆んど出ていなかった輸出にも力を入れようといふところまで来ている。

戦後の耐火煉瓦業界は23年頃から本格的な生産に入り、23年46万t、24年51万t、25年63万tと順次伸長をみせ、26年には朝鮮ブームの影響をうけて88万tという最高記録とを作つた。しかしこれは戦前の100万t台(最高昭和14年139万t)に比べれば程遠く、その後27年にはブームの反動で69万tに下り、28年は若干回復し71万tになつたが、29年はデフレにより再び下降し63万tとなつた。30年度は鉄鋼業の好調とともに73万t(実績推定)に回復したのである。

映画「日本の鉄鋼」国内版の完成

鋼材倶楽部ではかねて天然色映画「日本の鉄鋼」を製作中であつたがこの程完成した。これはききに日本鉄鋼輸出組合が海外宣伝用として企画した「日本の鉄鋼」を鋼材倶楽部が国内版として改編したもので、総天然色5巻である。